

檜原民之助の生涯

原野を切り開き、多くの困難を乗り越え、中
頓別の基礎を築き上げた偉大な開祖の生涯を
ご紹介します。



檜原民之助
中頓別町史より

民之助は1865年、大崎上島の東野村で次男として生まれた。民之助は船乗りを目指し、和船に乗り組み、船乗りとして腕を磨いた。

民之助が23歳のとき、乗船していた和船が遭難し、沈没。これを契機に民之助は帆船に乗り込んだが、またしても遭難し、命拾いをする。二度の遭難により民之助は船乗りを断念し、オホーツク沿岸で漁業を始めるが明治30年に入るとニシン漁が不漁になった。

そんなときに起きたのが、頓別川支流での砂金ブームである。不漁に苦しんだ漁師たちは砂金場を目指した。明治32年、民之助も砂金事務所

の支配人として仕事をしていった。明治34年には砂金の産出量が落ち、事務所は閉鎖、民之助は新たな職を探すことになり、この頃から頓別原野の開拓を思い立つ。

明治35年、ペーチャン川支流から上流にある頓別原野の調査を始め

に足元をとられ、生い茂る巨木で昼でも暗い原始林のなか、ヤブ蚊やブヨの襲撃に悩まされながら、頓別川の本流にたどり着いた。翌年夏、頓別原野4万5千坪の貸付を申請。期間は6年、この間に成功しなければ土地を返還しなければならぬ。

治42年、村人たちは草ぶき小屋の教育所を作った。民之助はこのとき開拓した所有地の3アールを学校の敷地として寄附している。